

(様式2)

令和7年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和8年(2026年)2月25日
札幌市立真駒内中学校

1 本年度の重点と経営方針

- (1) 人間尊重の教育を推進し、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを推進する。
- (2) 調和のとれた教育課程を編成し、全教職員の相互理解と協働によって推進する。
- (3) 生徒の多様性を大切にしながら、人間性や社会性を育む指導の充実を図る。
- (4) 学級を基盤として、学年や生徒会の諸活動を「生徒を主体とした活動」として再構築し、協働的な活動を行うことで自己有用感や所属意識を高める。
- (5) 小中一貫した教育を推進するとともに教職員の共通理解に立った協働体制を確立し、創意工夫あふれる小中で連携した教育活動を実践する。
- (6) 保護者や地域社会との連携を図り、信頼に応える開かれた学校づくりに努める。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
重点目標	② 学校は「学校ホームページ」や「保護者メール」、「学校だより」、連絡文書等を通じて学校の情報を発信し、学校の様子を子どもたちや保護者、地域に伝えようと努めている。	A	適時、行事や日常の生徒の様子を「学校ホームページ」のニュース等を活用し発信する。「すぐーる」を有効活用し、迅速な情報発信や集約を行う。	A	A
	③ 学校は校区内の小学校との連携・交流や研修の機会を多くする等、地域に開かれた学校づくりに努めている。	A	定期的な小学校との交流や、義務教育学校に向けたより具体的な学校運営・教育課程についての研修・検討機会を設定する。また、コミュニティ・スクールに向けて地域との連携も計画的に進めていく。	A	A
	④ 学校は「学年PTA」「学校公開日」や「学校祭」「まこりんピック」「合唱発表会」等の行事を通して、教育活動の発信や交流に取り組んでいる。	A	各行事当日だけではなく、準備の様子等も学校ホームページで発信するとともに、令和8年度2学期の校舎移転を踏まえ、年間の教育活動やPTA活動等について、適時情報発信を行う。	A	A
	⑥ 学校は授業中、課題(問題)に対して、ノートやワークシートに自分の意見やまとめを書いたり(体育科は『自己評価カード』)、ペアやグループで活動を行うなど、生徒の学力向上に向けた取組をしている。	A	昨年度同様に、課題探究的な学習を中心にどの教科においても「見通す」→「行動する」→「振り返る」学習活動の充実を図り、ICTを有効活用しながら、生徒の主体性を育む教育活動の一層の充実に努める。	A	A
	⑩ 学校は子どもたちや保護者と向き合い、教育相談や期末懇談、家庭への電話連絡を行う等、生徒の理解に努め、指導を行っている。	A	定期的な会議や相談活動、「シャボテン(心の健康観察アプリ)」等の、日常的な取組を通して、共通理解を図り、一人一人の子どもに寄り添った教育活動を心がけ、信頼関係の構築に努める。また、保護者と連携した取組を進める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	義務教育学校に向けた諸対策、生徒の主体性を育む教育活動に積極的に取り組んでいると考える。AARの活動の充実を図るとともに、生徒の見取りや生徒へのアプローチの手立てとして「シャボテン」の取組にも期待している。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
学習指導・確かな学力	⑤ 学校は「日々の授業」や「長期休校中の学習課題の支援」「放課後学習サポート」など、生徒一人一人に対応した学習指導をしている。（複数の教員による教科指導やALT[外国語指導助手]、補充的なプリント配布など）	A	授業を通じて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践に努め、生徒が主体的に学習に取り組めるような働きかけを行う。定期テスト前を中心に、学習サポートの時間を設定し、一人一人の学びの充実に向けた取組を進める。	A	A
	⑦ 学校は「Chromebook」や教材(資料集)・教具等を活用する等、分かりやすい授業をしている。	B	ICT機器をただ利用するだけではなく、研修会や実践例の交流を通して教員のスキルアップや共通理解を図り、学校としてより効果的な活用や運用に努める。	A	B
	⑧ 学校は、職業調べ、職場体験など「総合的な学習の時間」の時間のなかで、一人一人の適性や将来を考える機会を設けている。	A	「総合的な学習の時間」の中で、定期的に自分の進路や社会との関わりを見つめ直す機会を設け、生徒自身が将来の進路設計に取り組む機会を設定する。また、外部の教育力も適時有効活用していく。	A	A
	⑨ 学校は、計画的な評価計画や、適切な評価資料の提示に努め、授業や課題等の評価を通して、生徒の主体性を育む授業や評価を行っている。	A	全教科前後期制の取組が更に効果的になるように、年間評価計画作成や適切な評価資料・方法についての研修を更に深め、「学習の到達状況が見える評価の明確化」、「授業と評価の一体化」に努める。	A	A
	⑰ あなたは、1日平均どのくらい家庭学習を行っていますか。 1. 2時間以上 2. 1時間程度 3. 30分程度 4. ほとんどしない	B	昨年度とほぼ同程度であるが、家庭学習時間が30分以下の生徒が4割程度となっている。学校での学びと家庭での学びがつながるよう、主体的に学習に取り組む力の育成に努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	国語・数学・理科の3教科とも、全国学力学習状況調査の全国平均を上回っていることは、生徒と教職員の地道な努力の成果と考える。ICT機器の効果的活用、家庭学習の時間については更なる向上を望むが、⑦の達成状況の自己評価は「A」でも良いと考える。また、家庭学習の時間については、主体的に学習に取り組ませることで改善していくことを期待する。				
分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
生徒指導・豊かな心	⑪ 学校は体罰やいじめがなく、一人一人が尊重される学校生活が送れるよう努めている。	A	全教職員で協働し、学校の教育活動全体を通して、子ども一人一人が自分が大切にされていると実感できるよう努める。教育相談活動期間や生徒情報交流機会を適宜設定し、未然防止・早期発見・早期解決につながる取組を行う。	A	A
	⑫ 学校は「道徳の時間」のなかで、これまでの自分の経験やそのときの気持ちや考え方を交流したり振り返ったりする活動を設けるなど、生徒の心の育成に努めている。	A	年間計画に基づいた道徳の授業や、日常の授業を通して、さまざまな思いや考えを交流しながら心の育成に努める。また、各種講演会や外部講師等を有効活用し、多様な価値観や考えに触れる機会を充実させる。	A	A
	⑭ 学校は、「アンケート調査」や「定期的な面談(生徒・保護者・スクールカウンセラーなど)」「保健室・学習相談室(学びのサポーター)の活用」など、生徒の「心身の健康」の維持に努めている。	A	日常的に教師と生徒がコミュニケーションをとる機会を工夫し、より良い信頼関係が築けるよう、定期的な情報交流や、教育相談日、いじめアンケート等の有効活用、スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒の状況について共通理解を図る。	A	A
学校関係者評価委員による意見	いじめを許さない環境づくりや、道徳の授業などを通して生徒の心の育成に努めていること、アンケート調査や定期的な面談、保健室の活用等を通して心身の健康や心の育成に努めていることが評価できる。時代の変化に関わらず大切な価値観を身につけることができるような取組を期待する。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	改善策の適切さ	自己評価の適切さ
その他／信頼される学校・健やかな体	① 学校は儀式的行事(入学式や終業式等)の簡素化をはじめ「学校行事の見直しと実施の工夫」を行う等、生徒や保護者の理解を図りながら、教育活動を進めている。	A	学校評価アンケートや年度末反省の内容を反映させつつ、義務教育学校開校を見据えた教育課程の計画に努める。	A	A
	⑬ 学校は日常の生徒との相談活動や保護者との懇談、長期休みの生活記録の確認等を通して、生徒の「日々の健康管理」の確認に努めている。	A	「シャボテン(心の健康観察アプリ)」等を有効活用し、担任だけではなく、全教職員で、生徒一人一人の心と体の健康状態の把握に努めるとともに、保護者と連携し、引き続き適切な指導に努める。	A	A
	⑮ 学校は教科や新体力テスト、生活リズムチェックシートなどを通じ、生徒の体力を把握し、健康な体づくりを目指した教育活動に努めている。	A	「健やかな体」育成プログラムに基づき、生徒の実態に応じた効果的な取組の充実に努める。日常の体育科の授業に加え、保体委員会による昼休みの運動機会の充実、保健の授業や養護教諭との連携を図る。	A	A
	⑯ 学校は、部活動や運動に親しむ機会を設け、健やかな体づくりに向けて適切な指導に努めている。	A	生徒の心身の成長と体力の向上につながるような、効果的で充実した活動に努め、部活動活動方針を遵守し、適切なコミュニケーションを図って活動していく。	A	A
	⑰ あなたは、1日平均どのくらいテレビをみたり、インターネットやテレビゲーム、携帯電話やスマートフォンをしたりしていますか。 1. 2時間以上 2. 1時間程度 3. 30分程度 4. ほとんどみたり、したりしない	A	2時間以上と回答した生徒が約5割弱と、昨年度より減っている。家庭との連携を図りながら、ICT機器の活用方法や注意点、向き合い方等について適宜学び考える機会の設定に努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	「学校祭」、「まこりんピック」、「合唱発表会」など、教育活動の発信や交流、協同が良い方向に進められており、学校づくりが真剣に行われている証と考える。 義務教育学校を見据えた計画に努めており、「学ぶ力育成プログラム」についても、取組内容が成果につながっている。 今後も、PTAと教職員との信頼関係を大切にしたい取組を期待している。				